

篠山市、ヨウ素剤各戸配布

15年度 原発30キロ圏外で全国初

篠山市は2015年度、原発事故が起きた際に甲状腺の内部被ばくを防ぐ安定ヨウ素剤を、市民に事前配布する方針を固めた。厚労省が14年度に、30キロ圏内の自治体に

事前配布を求め、30キロ圏内では同委の判断のもと服用するの指針を示しているが、30キロを超える距離の自治体が事前に配るのは全国で初めてという。高浜原発から約50

キロ圏内には有識者でつくる原子力災害対策検討委員会を設置し、ヨウ素剤の配布や避難計画について協議してきた。14年に全市民と観光客用の計5万人を購入し、市役所や

診療所に備蓄している。一方で、事前に全戸配布を求める声もあり、対応を検討していた。事前配布の際、医師ら専門家による住民への問診や説明が必要



備蓄されている安定ヨウ素剤＝篠山市役所

で、住民は薬を受け取った後、服用量や副作用など注意事項を理解したとする受領書を提出しなければならぬ。

市は「まず住民への周知が必要」として、現在、自治会単位で学習会を開き、ヨウ素剤の必要性などを説明している。各自治会での説明を終えた後、校区単位などの規模で住民に集ってもらい、医師らの説明を経て配布するという。

酒井隆明市長は「万が一の際、備蓄場所に取りに行く時間的な余裕はない。できるだけ多くの人に薬を配りたい」と話している。(安福直剛)



(10面に関連記事)

ウクライナ軍 要衝撤退

一方、親ロシア派組織「ドネツク人民共和国」は18日、和平合意に従い、前線からの重火器撤去に着手したと発表した。親ロシア派は18日までにマリウポリエボをほぼ制圧。支配領域を広げた上で、ロシアのプーチン大統領らが達成した和平合意を履行する姿勢を示した。

18日、ウクライナ東部マリウポリエボ周辺を離れるウクライナ兵 (ロイター＝共同)

シエンコ大統領は18日、親ロシア派武装組織との攻防が続いていた東部ドネツク州の要衝マリウポリエボから政府軍が撤退を始めたと表明した。

【アズベスト(石綿)被害】石綿は毛髪のように十分の1の極細繊維からなる天然鉱物。安価で耐火性に優れ、建材として広く使われたが、吸い込むと肺がんや中皮腫を引き起こすことが判明し規制が進められた。2005年に尼崎市のクボタ日神工場の周辺で健康被害が発覚したのを契機に翌06年石綿健康

被害救済法が施行。労災が適用されない周辺住民らに医療費などが支給されるようになった。被害者らの訴訟が各地で起こされ、大阪・泉南の石綿工場労働者らについて最高裁は14年、国の賠償責任を初めて認める判決を言い渡した。全国の建設現場の元作業員らも国などに賠償を求め係争中。

の真意。一審判決は工場場で発生した石綿粉じりから粉じんが暴露した山内孝次郎さん(77)は「工場



寛千佐子容疑者

青酸変死事件

青酸化合物を使った京都、大阪の連続殺人事件で、殺人容疑で再逮捕された京都府の寛千佐子容疑者(68)が、青酸が検出された2人以外に、交際していた兵庫県の男性や知り合いだった男性数人の死亡に関与したとほめかす供述をしたことが18日、捜査関係者への取材で分かった。

他に

同姓を名乗るよう規定している。いずれも明治時代から規定があり、夫婦同姓の規定は戦後、「家姓の姓を名乗るから夫が妻の姓を名乗る」と改